

第27回ヘルスツーリズムセミナー

旅で元気に！ ～トラベルメディスン、若者からみた旅の進化～

2011年11月29日(火)開催

実施報告書

2011年1月12日

特定非営利活動法人

日本ヘルスツーリズム振興機構

第27回 ヘルスツーリズムセミナー 開催概要

日時 : 2011年11月29日(火) 16:30~18:00(懇親会終了予定 19:30)

会場 : NPO会議室A・B(東京都品川区上大崎2-24-9 アイケイビル3階JTBコミュニケーションズ内)

主催 : 特定非営利活動法人 日本ヘルスツーリズム振興機構

後援 : 財団法人 日本健康開発財団

16:30~ 【主催者挨拶】 **森 昭三 理事長**

16:35~ 【第一部】 **濱田 篤郎 先生**

東京医科大学病院 渡航者医療センター 教授
日本渡航医学会 理事長

「長距離移動にともなう健康問題について
～旅の進化論の観点から～」

17:30~ 【第二部】 アカデミックパートナーヘルスツーリズム研究事例発表

明海大学 ホスピタリティ・ツーリズム学部

「学生視点によるヘルスツーリズムの実践～日帰り企画の立案をつうじて～」

琉球大学 観光研究科ウェルネス研究分野

「地域の文化資源、自然資源を活かしたヘルスツーリズムの研究
～沖縄“島スパ”ツアープログラムの共同研究開発～」

18:15~ 【懇親会】

講演者を囲んで気軽に情報交換をする場です。会費1000円。
学生さんは無料です。

＜基調講演＞ 「長距離移動に伴う健康問題
～旅の進化論の観点から～」

[16:35~17:30]

講演者略歴: 濱田 篤郎先生

1981年に東京慈恵会医科大学卒業後、米国Case Western Reserve大学に留学し感染症、渡航医学を修得する。帰国後に東京慈恵会医科大学・熱帯医学教室講師を経て、2004年より海外勤務健康管理センターの所長代理。新型インフルエンザやマラリアなど海外の感染症対策事業を運営してきた。2010年7月より現職に着任し、海外勤務者や海外旅行者の診療にあたっている。2011年8月からは日本渡航医学会理事長も兼務する。

著書に「旅と病の三千年史」(文春新書)、「疫病は警告する」(洋泉社新書)、「世界一病気に狙われている日本人」(講談社α新書)、「歴史を変えた旅と病」(講談社α文庫)、「新型インフルエンザ」[かかる前に』『かかってから』(講談社α新書)「新疫病流行記」(バジリコ)など。



講演概要(事務局編集)

1. 東京医科大学病院・渡航者医療センターについて

(1) 概要

- ・海外渡航者(勤務者、旅行者、留学生)のための総合的健康管理施設
- ・所在地は、東京都新宿区西新宿
- ・2010年9月に、日本の大学病院として最初のトラベルメディスン(渡航医学)専門診療科として設置

(2) 診療内容

- ① 出国前診療
予防接種、慢性疾患のある渡航者対応、こども健康相談、高山病外来
- ② 滞在中の医療対応
- ③ 帰国後診療(熱帯感染症外来)

(3) 情報提供、研修事業

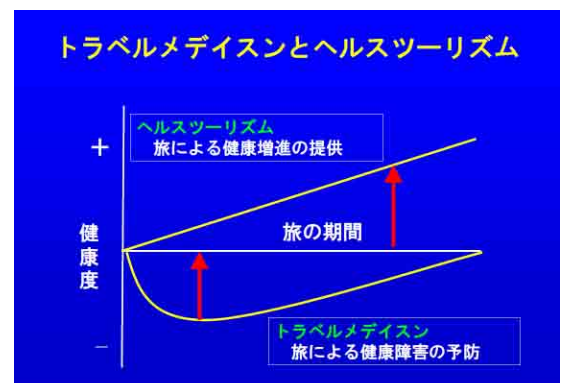
- ① 渡航者や健康管理担当者への情報提供
HPでの提供、相談窓口
- ② 医療関係者などへの研修事業
医師、コメディカル、企業担当者など



詳細は東京医科大学病院
<http://hospinfo.tokyo-med.ac.jp/>

2. トラベルメディスンとヘルスツーリズム

いずれも旅と健康に関する学問であるが、ヘルスツーリズムは旅によって健康度を上げるのに対し、トラベルメディスンは、旅によって下がった健康度を上げることを目標とする。



3. 「旅の病」への挑戦

(1) 古来、旅は苦痛を伴うものであった

トラベルの語源は、trouble(心配)やtoil(苦痛)であり、旅先で病にかかることは、最も恐れられていた。

(2) 著名人の病との戦い

①アレキサンダー大王(BC356~BC334)

大遠征中、バビロン(現在のイラク)にて10日間の高熱の後、死亡。マラリアだろうと言われている。

②玄奘三蔵(600?~664)

天山山脈(5000m級)を超える際、頭痛に襲われる。高山病と見られる。幸い山越えに成功し、帰還することが出来た。

③マルコポーロ(1254~1324)

「東方見聞録」によると、ベニスから中国へ旅した3年間のうち、約1年間にバタフシャン(現在のアフガニスタン)で病氣療養のため過ごしている。結核ではないか、と言われている。

④大航海時代(15~16世紀)

バスコダ・ガマのインド航路の旅では、170名中わずか44名が帰還。2/3は、帰らぬ人となる。

世界一周を成し遂げたマゼランは、270名中の18名が帰還。マゼラン自身も途中のフィリピンで死亡。

この時代、「海のベスト」として恐れられたのが壊血病である。ビタミンCの欠乏により歯ぐきから出血し、食事が取れなくなって死んでゆく。旅の病の恐怖を感じながら旅をしていた時代であった。

(3) マラリアの克服

①16~17世紀にかけて、マラリアがヨーロッパ(特にイタリア)でも大流行する。

②16世紀の初頭、南米の宣教師が、インディオが解熱剤として使っていた「キナ」(薬草の一種)をマラリアの薬として使用を始める。植民地化の進捗と共に「キナ」もヨーロッパ諸国に広まる。

③19世紀になると「キナ」から有効成分のキニーネが精製され、予防的に飲まれるようになる。

当時は、錠剤のキニーネを水に溶いて毎日服用していた。ジンを入れて美味しく飲む風習が生まれ、現在のカクテル「ジン・トニック」が誕生した。

(4) 馬車の改良

17世紀以前の馬車は、揺れが強く長距離の移動には向かなかったが、バネ(スプリング)を用いるようになると、旅の疲労が軽減されるようになった。

(5) 旅は楽しみとなる

マラリアの克服、馬車の改良などにより、旅をする人が飛躍的に増えた。この頃から旅を tour (ツアー=帰還する旅、元気に戻る旅)と呼ぶようになり、楽しみとしての旅行が成立する。

(6) グランドツアー

17世紀に、主にイギリス貴族の子女が、フランス・イタリアの文化を学ぶために長期旅行する風習が広がった。

(7) 温泉をめぐる旅など

ヨーロッパの富裕層が、温泉や海岸に長期滞在して保養する旅のスタイルが生まれた。ドイツのバーデン・バーデンが有名だが、ヘルスツーリズムの先駆けと言える。

(8) 交通機関の発達

19世紀になると、汽車や汽船がなど交通機関が目覚ましく発達する。世界最初の旅行会社と言われるトーマス・クック社も誕生した(1841年)。

(9) 航空機の登場

20世紀に入り、航空機が誕生すると人々の移動範囲は著しく広がった。

第二次世界大戦後の海外旅行者数は、まさにうなぎのぼりである。



4. 海外渡航中の健康問題の発生頻度

(1) 1カ月以上途上国に滞在した場合の発生頻度(スイス人旅行者)

何らかの健康問題	50~60%	入院	0.3%
疾病に罹患	20~30%	緊急帰国	0.05%
受診	8%	死亡	0.001%

(2) 海外旅行保険加入者の事故発生率(ジェイアイ傷害火災保険)

2010年度 : 3.33% (30人に1人)、半分近くは治療救済費用……「万が一」の比率ではない事に注意。

5. 現代の海外渡航者の健康問題

(1) 感染症

経口感染(下痢症、A型肝炎)、蚊に媒介(マラリア、デング熱)、性感染症、狂犬病

(2) 環境の変化による健康問題

① 気候由来による疾病(熱射病、日焼け)

② 航空機内の疾病

旅行者血栓症(いわゆるエコノミークラス症候群。米国のニクソン大統領も起こしていた可能性がある。)

③ 時差症候群

④ 高山病

いまや登山者の病気ではなく 一般の人がかかる病気である。旅行者だけでなく、旅を提供する側も細心の注意を払うべきである。

(3) 外傷

交通事故

(4) ライフスタイルの変化

生活習慣病、メンタルヘルス

旅行者血栓症

エコノミークラス症候群が起きる仕組み

- ・ **発症メカニズム**
深部静脈血栓症+肺動脈血栓症
初期症状: 片側大腿から下の脚の発赤・腫脹・痛み
- ・ **リスク**
 深部静脈血栓症の既往、血小板増多症
 6週間以内の大手術、下肢静脈瘤
 心血管疾患の既往、経口避妊薬
- ・ **予防**
 機内で一般的注意(水分補給、足の運動)
 ハイリスクは弾力ストッキング、抗血栓薬の使用も検討
 睡眠剤の服用禁止
- ・ **対応**
 症状が発生したら、足を高くし、安静。
 足を動かさないように車椅子で降機させ、医療機関を受診させる。

6. 20世紀の「旅の病」への挑戦～トラベルメディスン(渡航医学)の成立

(1) トラベルクリニックの成立

1950年代～ヨーロッパでトラベルクリニックが誕生した。

旅行中の健康指導、滞在先の医療衛生情報の提供、予防接種、予防内服、携帯医薬品の販売、帰国後の診療などを行う。

(2) 1989年 International Society of Travel Medicine 第1回大会

スイスのチューリッヒに於いて、第1回の大会を開催。公衆衛生学を専門とする Robert Steffen 教授(チューリッヒ大学)が大会長を務める。

(3) 健康問題の改善

一つの例として、1951年コンゴで撮影された「アフリカの女王」(キャサリーン・ヘップバーン主演)では、撮影隊はマラリア・赤痢などの感染症に悩まされた。

1957年同じくコンゴで撮影された「尼僧物語」(オードリー・ヘップバーン主演)では、撮影隊は感染症にかからなかった。この時期に、トラベルクリニックの普及が感染症の克服に役立ったと言える。

(4) 日本での健康問題の改善

マラリアが激減している。トラベルメディスンの広がり、2000年からメフロキンを販売されるようになった事が寄与している。

7. 現代の旅における健康問題

(1) 高齢の渡航者増加と健康問題

日本人出国者における60歳以上の割合が増えている(2009年では、全体の20%)。
海外での疾病による援護者数では、60歳以上が約3割を占めており、高齢者の健康管理が急務である。

(2) 高齢者に健康問題が起こりやすい理由

移動中の疲労が蓄積する、滞在先の環境に順応が困難、慢性疾患を抱える者が多い、旅行中に軽度の躁状態になる(アクティブになり過ぎてしまう)など。

(3) 高齢の渡航者に対する健康対策

- ①ゆとりある日程～中高年者用ツアーの利用
- ②慢性疾患のある場合は主治医に相談～英文診断書の携帯
- ③念入りな旅行準備～常用薬、旅行保険(健康保険)、医療機関情報など事前に用意

8. 長距離移動と疲労

(1) 移動中の疲労はなぜ起こるのか？

① 移動中の振動

振動に対し、体勢を整えようと無意識のうちに筋肉を硬直させている。そのため肉体的な疲労が発生する。

② 狭い空間

長時間の姿勢保持で筋肉などの血流が低下する。

③ 到着後の周囲の環境変化

例えば、東京と大阪ではエレベーターの乗り方が違う、気温も違うなど環境が違っている。そのため精神的な疲労を助長する。

④ 移動中の退屈

(2) 交通機関の居住性アップ

移動の疲労軽減に対し、交通機関の居住性アップが注目されている。



JR東日本「はやぶさ」グランクラスの内



JAL エンブラエル170のキャビン内

9. まとめ

(1)「旅の病」への挑戦

- ①第一期：16世紀～17世紀、マラリアの克服、馬車の改良、17世紀のグランドツアー
- ②第二期：20世紀～21世紀、トラベルメディスン、航空機や列車の居住性向上、21世紀のグランドツアー

(2)スロートラベルのすすめ

19～20世紀に「オーシャンライナー」と呼ばれる客船が大量に人々を輸送した。

「タイタニック(1997年)」や「めぐり逢い(1957)」など名画の舞台になっているが、その当時は、航海中に恋が芽生えるほど時間をかけて旅をした。昔は移動も旅の楽しみだったといえる。現代でも移動時間を楽しむスロートラベルを復活させてはどうか。スロートラベルはトラベルメディスンにも貢献し、ひいてはヘルスツーリズムの普及にもなると考えている。

質問1:トラベルメディスンの日本での普及状況は？

回答1:各国の空港で調査されたトラベルメディスンに対する国民の意識調査の結果がある。西ヨーロッパでの認識は52%、米国が36%、豪州は31%である。日本の調査では、2～3%程度と、まだまだ低い数字になっている。

質問2:子供連れで旅行する場合、気をつける点は？ また、どういう時にトラベルクリニックを訪れるべきか？

回答2:旅行に出掛けるには、子供の記憶に残る年齢に達してから(おおよそ幼稚園程度)でないと、子供に負担がかかるだけの旅になってしまう。移動中に子供を寝かせたいという要望をよく聞かすが、睡眠薬など薬を使うのはお薦めできない。出来るだけ短時間の移動ですむデスティネーションを選ぶと良いだろう。

トラベルクリニックを利用して欲しいのは、慢性疾患のある時。トラベルクリニック自体増えているので上手に活用して欲しい。

質問3:インバウンド(海外からの)旅行者を日本にて迎える場合、医療に関して日本特有の問題はあるか？

回答3:日本特有の問題はないと思うが、外国人にとって日本の病院は使いにくいと言われている。言葉の問題や医療システムの違い、保険制度の違いなど外国人には受け入れにくいようである。



アカデミックパートナー
研究事例発表

明海大学ホスピタリティ・ツーリズム学部
「学生視点によるヘルスツーリズムの実践 [17:30~17:45]
～日帰り企画の立案をつうじて～」

講演概要(事務局編集)

1. 明海大学 ホスピタリティ・ツーリズム学部

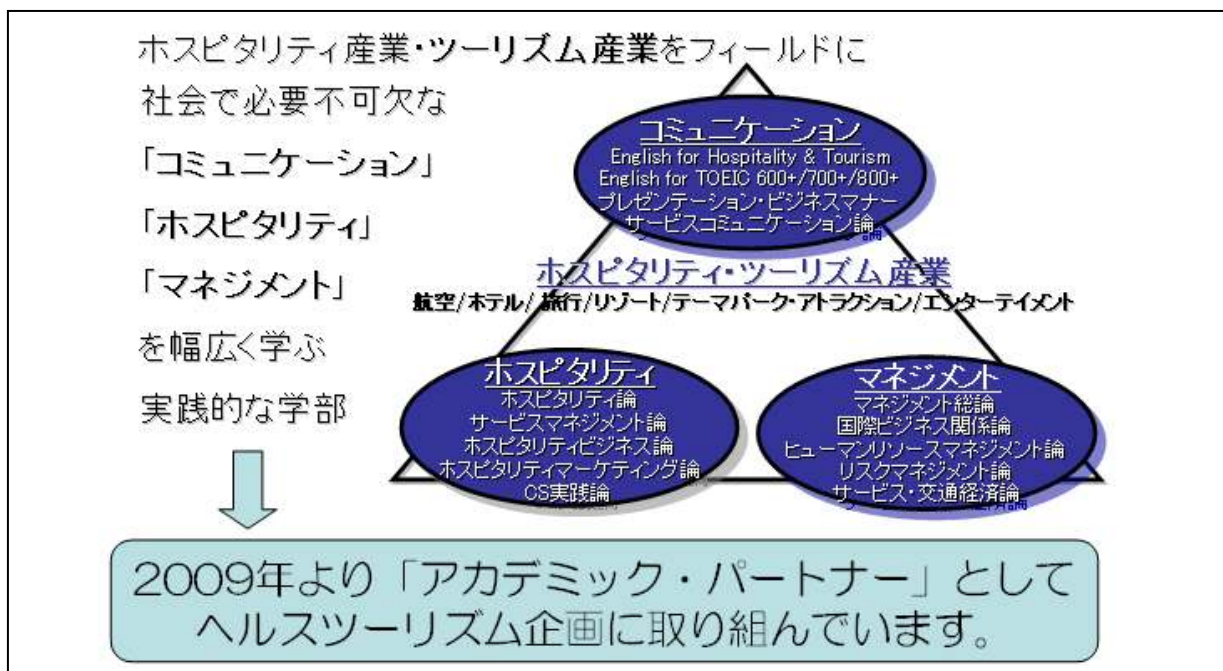
(1) 概要

学部:ホスピタリティ・ツーリズム学部
学科:ホスピタリティ・ツーリズム学科
定員:200人
開設:2005年4月

(2) 学部の目標



明海大学 関ゼミの皆さん



2. 研究の指針

(1) コンセプト

学生視点によるヘルスツーリズムの実践(日帰りツアー企画の立案)

(2) 研究対象地

- ① 四季彩葉 さがみはら (神奈川県相模原市)
- ② 佐原さんぽ (千葉県佐原市)
- ③ あしあとをたどって (東京都多摩市)

3. 各班研究発表

(1) 1班 「四季彩葉 さがみはら」 (神奈川県相模原市)

①コンセプト

都内からアクセスの良い地で、ウォーキングを通じて季節ごとの良さを感じ、心身ともに元気になる。

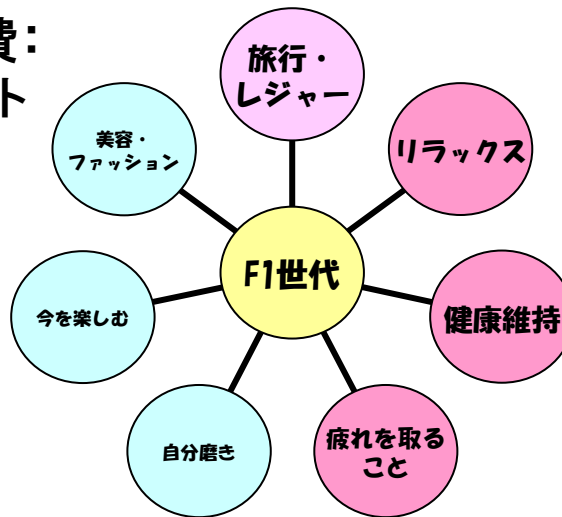
②ターゲット

20~30代の女性 いわゆる「F1世代」~おしゃれに敏感なこだわり消費の世代

③特徴

観光地化されていないディステーションを対象とし、地域活性化にもつなげる。

F1世代の消費: 7つのポイント



ヘルスツーリズムの促進要素

④パンフレット



(2) 2班 「佐原さんぽ～食べて、歩いて、癒されて～」(千葉県佐原市)

①コンセプト

歴史資源をめくりつつ、運動・栄養・休養への配慮と、小さな発見を促す街歩き。

②ターゲット

女性同士のグループ、シニア層

③特徴

佐原を舞台とした既存のプランとの差別化、酒蔵見学を取り入れ。

みどころ 1

佐原・町並みウォーキング

歴史ある町並みを歩くと、生きた佐原の町並みを体験できる。サイクリングではなく歩くことで小さな発見や人々とのふれあいも生まれてくる・・・

休養の効果

さっぱ船に乗り 風を感じながらゆるりと流れるひとときを

諏訪神社 展望台へ・・・、緑を感じ佐原の景色を一望



④パンフレット



佐原さんぽ

～食べて、歩いて、癒されて～

料金

車庫前～車庫前	3240円(往復)
伊原町駅前	大人500円 小中250円
	団体450円(15人以上)
	中山津高麗との各回チケットで100円オフ
さっぱ船	大人1200円 子供600円
伊原町駅前	無料

TOTAL 5240円

営業時間

車庫前	午前10時～午後3時30分
伊原町駅前	午前9時～午後4時30分(休祭日 月曜日)
山津高麗	午前9時～午後4時30分(休祭日 月曜日)
常盤町交差点	午前10時～午後5時(休祭日 第2月曜日、1月1日)
さっぱ船	午前10時～午後4時(3月～4月、10月～11月)
	午前10時～午後5時(5月～9月)

文化財めぐり



歴史の景観

現代に伝える

小野川の賑わいを

運動

志原の生まれ育った佐原の町。ゆっぴりてくてく佐原散歩。のんびりな散歩を堪能。自然と足が動いてくる。諏訪神社に向かう階段は127段!!のぼれば達成感が得られることまちがいない!

食事

食べることで元気に。

↑ 養生屋うなぎ ↓ 黒糖そば
↑ うなぎもおそばも 佐原で有名!! 特に養生屋は地元人気で、ごはんを使用し、黒さを出している。

↑ ほていゆの 黒糖かりんとうまんじゅう ↓ かりがまん
↑ 黒糖黒豆ゼリー ↓ 黒糖シャベット

↑ からしんとの 魚骨出汁の汁は300円で試飲可能。 ↓ 黒糖黒豆ゼリー
↑ すーいっつ ↓ 黒糖黒豆ゼリー

↑ その他、無料での試飲もあり ↓ 黒糖のむ日本酒は 格段とおいしい!!

休養

諏訪神社

静かたくさん!! 緑林浴をしながら 展望台で佐原のパワーを感じよう。

さっぱ船で一休み、30分ゆっぴり船に 乗れながら 歴史ある町並みも 見て癒されよう!!

(3)3班 「あしあとをたどって」(東京都多摩市)

①コンセプト

人気のジブリ作品の舞台を歩いて巡り、ウォーキングの健康効果を得ると同時に作品世界に触れて五感を使い、リフレッシュする。

②ターゲット

ファミリー、友人同士のグループ、カップル、外国人観光客

③特徴

モデル地巡りのプランは近年増えているが、「ジブリ作品のモデル地」をメインとし、このようにヘルスツーリズムに関連付けたプランとしての希少性。

-ヘルスツーリズムの要素-

◆運動：徒歩（ウォーキング）

(歩数:約18000歩、消費カロリー:約400kcal)

◆休養：井の頭公園内 森林浴

(リフレッシュ効果、目を休める)

◆栄養：自然派ダイニングわらべ

(産地直送・朝採れ野菜使用)

森林浴の効果

- 嗅覚からの効果
- 脳への効果
- 視覚からの効果



井の頭公園の遊歩道

④パンフレット

あしあとをたどって

行程表

8:30	JR東京駅出発
↓	約1時間
9:30	三鷹駅ヶ丘駅
↓	写真を撮るためのモデル地散策 約1時間 30分
1:00	三鷹駅ヶ丘駅
↓	約40分
1:40	吉祥寺駅
↓	約10分
1:50	自然派ダイニングわらべで昼食
↓	約75分
3:10	井の頭公園散策
↓	約45分
↓	散策しながら向かう
3:55	三鷹の森ジブリ美術館散策
↓	約1時間 30分
5:40	三鷹駅
↓	約10分
5:50	三鷹小倉井駅
↓	約10分
6:00	江戸東京たてももの園散策
↓	約30分
↓	約10分
6:40	三鷹小倉井駅
↓	約40分
7:20	JR東京駅到着

予算

- 交通費 1540円
- 食費 1600円
- 三鷹の森ジブリ美術館 1000円
- 江戸東京たてももの園 (一般の料金) 400円

※ 小倉井駅は上り・下り・乗車券(乗車) 400円
 ※ 乗車券、乗車券
 ※ 小倉井駅、三鷹駅、三鷹

↓ 全部で 約 4540円

交通

- JR 東京駅 約15分
- 新大塚駅 約30分
- 三鷹駅 約25分
- 明大前駅 約10分
- 吉祥寺駅 約10分
- 三鷹駅 (行程を参照)
- 三鷹小倉井駅 約10分
- 三鷹小倉井駅 約40分
- JR 東京駅

予算

- 交通費 1540円
- 食費 1600円
- 三鷹の森ジブリ美術館 1000円
- 江戸東京たてももの園 (一般の料金) 400円

※ 小倉井駅は上り・下り・乗車券(乗車) 400円
 ※ 乗車券、乗車券
 ※ 小倉井駅、三鷹駅、三鷹

↓ 全部で 約 4540円

LUNCH ☆

日本の食事をテーマに
 新鮮な産地直送野菜をふんだんに使用した
 自然派ダイニング「わらべ」で
 プュウフェスタイルのLUNCH

講演概要(事務局編集)

1. 研究の背景

(1) 世界に発信できる“沖縄資源”

- ① 沖縄タイム ……スローライフ、スロースタイル
- ② リゾート ……都会からのリトリート(退却、避難)、
非日常性
- ③ 海(タラソ) ……自然回帰、自然療法
- ④ ユタ、先祖崇拝 ……癒し、スピリチュアル
- ⑤ 伝統文化芸能 ……伝統と新規性の融合
(ニューカルチャー)



琉球大学大学院 荒川ゼミの皆さん

(2) 島スパ・コンテンツ開発について

対象: スパ＝沖縄の魅力を伝える手段、ならびに市場拡大が期待される産業

方法: エビデンスベース＝健康商品としての投資面、沖縄の強みを活かす、高付加価値の創出、差別化

(3) スパの定義・歴史

① 定義

美と健康の維持・回復・増進を目的として、温浴・水浴をベースに、くつろぎと癒しの環境と様々な施設や療法などを総合的に提供する施設 (ISPA: International Spa Association の定義より)

② 歴史

起源は紀元前のローマ時代、現代のスパ産業が確立したきっかけは、アメリカのスパ・ムーブメント(1991年)による。日本では、温泉(Hot Spring, Spa)を起源とする。沖縄では、沖縄の自然、雰囲気を活かした「琉球エステ・スパ」の開発、組合の設立が進む。

③ 現状

医療目的の利用からストレス解消や美容目的の利用へ。

2. 「島スパ・島プログラム」の開発・商品化プロジェクト

(1) 共同研究開始時期

2010年4月～



(2) 役割分担

① パシフィックホスピタリティグループ/日本スパカレッジ運営

- 島スパプログラム開発
- ウェルネスコンシェルジュ養成
- 島スパツアー商品化

② 琉球大学大学院観光科学研究科ウェルネス研究分野

- ウェルネスチェックシートの助言・監修
- ウェルネスアクティビティ共同研究開発
 - ・沖縄空手アクアビクス
 - ・ノルディックウォーキングコース開発、消費エネルギー計測
- 健康エビデンス収集



3. モニターツアー

- (1) 日程
2011年11月25日(金)～27日(日) 2泊3日
- (2) 場所
沖縄本島中部(うるま市東岸部・島嶼地域)
- (3) 目的
ツアー商品化への最終検証第一弾として

島すば × 国立大学法人 琉球大学 コラボ

“ぬち癒しモニターツアー”

沖縄のんびり癒しコースで、気軽にデスティネーションスパ体験
～昔ながらの古民家とパワースポットで心も体もリセット～

4. モニターツアーの様子



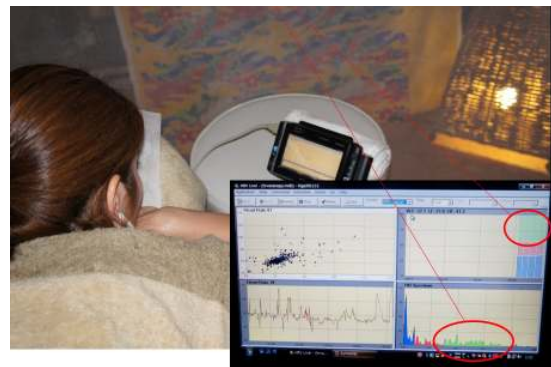
i-padを利用したカウンセリング



生体リズム調整プログラム(モーニングヨガ)



島マース(島塩)づくり体験



古民家スパでのリラクゼーション効果測定



滞在中の睡眠の質的評価サービス



ノルディックウォーキング

5. 島スパツアーの特徴

ツアー前後の健康評価を サービス化、集客ツールとして確立

- 体組成測定
- 血圧測定
- フェリカ対応歩数計
- 腹部脂肪計
- スリープスキャン(睡眠)



- アンケート(i-Padによる自己評価)

● 体の症状、意識の変化を点数化

● 評価項目

- ① 首や肩のコリ
- ② 頭痛
- ③ 腰の痛み
- ④ 膝の痛み
- ⑤ 体の冷え
- ⑥ 睡眠の状態
- ⑦ 食欲
- ⑧ 便秘
- ⑨ 疲れ
- ⑩ むくみ
- ⑪ お肌のトラブル

項目	0	1	2	3	4
首や肩のコリ	○0	○1	○2	○3	○4
頭痛	○0	○1	○2	○3	○4
腰の痛み	○0	○1	○2	○3	○4
膝の痛み	○0	○1	○2	○3	○4
体の冷え	○0	○1	○2	○3	○4
睡眠の状態	○0	○1	○2	○3	○4
食欲	○0	○1	○2	○3	○4
便秘	○0	○1	○2	○3	○4
疲れ	○0	○1	○2	○3	○4
むくみ	○0	○1	○2	○3	○4
お肌のトラブル	○0	○1	○2	○3	○4

【お客様にとって】

- ◆ ツアー中も健康データをチェックすることで安心して旅行をお楽しみ頂けます
- ◆ 健康メニューの効果を実感して頂けます
- ◆ ツアー後も継続的な健康管理ができます
(タニタ「からだカルテ」との連携)

※会員数20万人(2010年時点)



【ホテル・スパ施設にとって】

- ◆ きめ細やかな顧客管理ができます
- ◆ 自信をもったメニュー提供ができます
- ◆ お客様の満足度を高め、リピート率向上につながります

6. 島スパツアーのねらい



カロリー計算された食事や、
スピリチュアルツアーでの五感の刺激

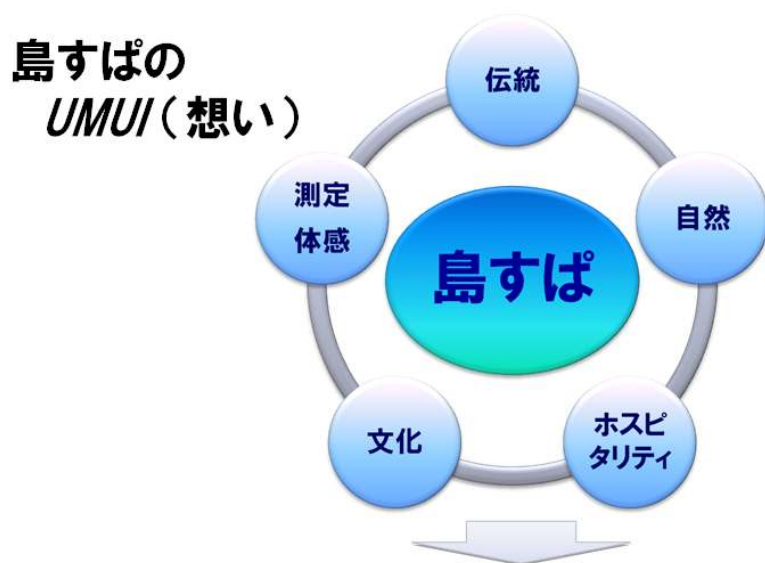
内側からの癒し・健康

トリートメントによるリラックス効果や、
ノルディックウォーキングによる運動

外側からの癒し・健康



7. 島スパツアー企画に寄せる想い



ストレスを抱え、時間に追われる現代人の
生活習慣を見直すきっかけになってほしい・・・
・・・そしてまたリセットするため沖縄へ帰ってきて欲しい・・・

以上

懇親会 [18:20~19:20]



ヘルスツーリズムの気軽な情報交換の場として33名様が参加。年齢や学校の壁を越えて、活発に意見交換を行う。

森理事長と講師の濱田先生を囲んで。



アンケート結果

配布枚数: 43枚

有効回答数: 11枚 (回収率26%)

1. 今回のセミナーはお役に立ちましたか？

はい	11
いいえ	0
どちらとも言えない	0

n=11



その理由をお書きください。

- ・旅というと楽しいものだと思いがちだが、そうではない面を知ることができた。とても勉強になった。
- ・高齢者の渡航時における疲労の原因が理解できた。
- ・トラベルメディスンという分野を知ることができて良かった。
- ・卒論で介護旅行をテーマにしているのでとても参考になった。

2. 次回以降のセミナーで、聞いてみたいテーマ・分野をお答えください。

- ・仕事(出張)と健康について
- ・高齢者の外出・旅行について
- ・今回のような「医学と世界の歴史」について
- ・旅の造成時に健康を取り入れる際のポイント
- ・ヘルスツーリズムの医学的効果、病院と観光(旅行)のコーディネート問題(メディカルツーリズム)

3. その他、ご要望・お気づきの点などがありましたらご記入ください。

- ・学生の発表が新鮮でとても参考になった。
- ・休日開催だと、もっと学生が参加できる。
- ・部屋が暑かった。マイクがあればなお良い。

以上

特定非営利活動法人
日本ヘルスツーリズム振興機構

〒141-8657
東京都品川区上大崎2-24-9
アイケイビル3階
(株式会社JTBコミュニケーションズ内)

TEL・FAX 03-5434-8785
<http://www.npo-healthtourism.or.jp>